

# 学校通信

学校生活における大切なお知らせです

3

2026 MAR.

第 274 号

## 学校長からのメッセージ

この3月末日をもちまして、校長として9年、YMCAでの46年にわたる働きにピリオドを打ちます。

振り返れば学生時代のYMCAキャンプリーダーの延長のような気分で就職。当時はまだ珍しかった「働く母」として「育児中だからと後ろ指をさされたくない」一心でがむしゃらに走り続けた時期もありました。転機は、30代後半です。「一人の大人との良質な出会いが、逆境にある子の人生を救う」という事実を学んだ時です。以来、「人と人、人と神様をつなぐ仕事」をしたいと願い続けてきました。

その後、発達障害の子どもたちとの出会いは私の働き方も人生も変えました。困難を抱えている子どもたちや保護者の声に耳を傾ける中で、「体育が嫌い」と聞けば楽しい体育クラスを、「友達がいない遠足は楽しくない」と聞けば野外活動を、そして「この子に合う高校がない」という切実な願いを受け、「表現・コミュニケーション学科」(西区土佐堀)を立ち上げました。「これは生徒のためになっているか」、「神様に喜ばれるか」を自らに問い続ける日々。その中で「安心できる環境と関係性があれば、人は劇的に変わる」という奇跡を何度も目にしました。「目の前の声に応えたい」という思い、「YMCAなら必ず良いものを提供できる」という確信が、今日までの私の原動力でした。

卒業を迎える皆さんには「生きていてよかった」「幸せ」と思える人生を送ってほしい。そのためには、「4つの自立(生活・経済・社会・精神)」が必要です。自立には、「忍耐力」が大切。その忍耐力を支えるのは、皆さんの心にある「希望」です。卒業する皆さんは、「高校を卒業する」という希望のために今日まで踏ん張れました。それが小さなことでも、希望があれば人は強くなれます。あきらめず、いつも希望をもって歩むことを祈っています。そして迷ったときは、いつもを「生きる!」を選んでください。

最後になりますが、毎月コラムを読んでくださった皆さん、長い間ありがとうございました。4月からも週に数日は学校に顔を出しています。またお会いしましょう。

(校長 鍛治田 千文)

「希望は失望に終わることはない」 (ローマ人への信徒への手紙 5章5節)

学校法人 大阪YMCA

YMCA 学院高等学校

〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町 1-3

TEL 06-6779-5690 FAX 06-6779-1831



こちらから大阪YMCAの機関紙  
「大阪青年」にアクセスできます





# 今月の聖句

「あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。」

(詩編 121 篇 8 節)

三月、日本では別れの季節がやってきます。卒業する一人ひとは、新しい場所に旅立つこととなりますが、送り出す側はどのような思いを持つのでしょうか。

今月の聖句は、聖書の詩編 121 篇を選びました。これは、ある人の旅路を「送り出す側」の詩だからです。その内容を一言でいえば、「主があなたを見守ってくださるように」です。

一度旅立ってしまえば、私たちはいつものようにその人と顔を合わすことができなくなります。中には、もう一生出会うことがない人もいるかもしれません。そのような人を、私たちは直接見守ることも支えることもできなくなる。でも、旅立った人の人生は続いていく。そして、うまくいかないこと、辛いこと、苦しむことが訪れる時がくる。そのような将来の出来事を見越し、そこから守られるようにという願いが、この詩にはこめられています。

私たちは生きていく中で、一人で苦しみの中にいる時、誰も自分を必要としていないと感じる時があります。そんなとき、ふと「自分のために祈っている存在がいる」ということが支えや指針になるときがある。それが、たとえ遠く離れていても、出会わなくなっていたとしても、あるいは一方がすでに存在しなくなっていたとしても、その「祈り」は思いという形で力を持ち、生きている私たちに影響を与えます。この詩は、そういった目に見えない力を私たちに思い出させるものとして、二千年以上語り継がれてきました。

旅立っていく皆さんへ。その旅立ちを送る者の一人として、この詩編を贈りたいと思います。



## 「今月の聖句」 自己紹介

森山 徹(もりやま とおる)

Y チャレンジコース 1 年次の担任と、Y リンクコースの担当をしています。

好きなことは、読書(マンガ含)とスポーツ観戦と休日の二度寝。聖書の言葉や物語の魅力を少しでも共有できればと思っています。

